

科目担当者氏名		科目担当者連絡先（メールアドレス）	
齋藤 孝滋			
連絡責任者氏名		科目設置機関名	
小ヶ谷 千穂		フェリス女学院大学 文学部 コミュニケーション学科	
授業科目名	科目認定番号	受講者数	
コミュニケーション専門ゼミIIA	FERa-090801-2	11人	

I. 調査実習に関するコメント

学生が果たした役割や実習全般に対する感想など：

本調査実習は、アンケートを利用した意識調査と、実際の録音音源を用いての音声解析の二つの段階に分かれており、相当の時間と労力を要するものとなっていたが、学生は十分に実習内容を理解し、調査・分析を遂行したと考えている。

II. 調査の企画・設計（デザイン）

1. 調査のテーマ／領域：

声の志向性に関する音声言語学的分析

2. 調査の内容／概要：

「いい声」のイメージ特徴を抽出するために、主観評価項目を含むアンケート調査によって「いい声」とされるものを選択し、それらの音響音学的に分析し音響特性を明らかにした。

3. 調査の範囲／対象（量的調査の場合は母集団と標本数及びサンプリングの方法を、質的調査の場合は対象者選定の理由を必ず記入）：

意識調査に関しては、19歳から27歳までの女性51名（「男性」の声を対象とし、「異性」による評価を主眼としたことにより、調査対象は女性のみとなっている）。音声解析の対象は4名分4サンプル。

4. 主な調査項目：

「いい声」だと思ふ声の性質については、「低い声」「芯のある声」など17項目と、「いい声」だと評価された有名人の名称。音響音声解析については、発話速度・ピッチH・ピッチL・ピッチ幅の4項目。

III. データ収集の方法と結果

5. データ収集（現地調査）の方法：

アンケート調査、および、音声の録音、解析。

6. 調査の実施時期・調査地・調査員の数：

2009年11月。フェリス女学院大学。調査員数は11名。

7. 収集したデータの量と質への評価（量的調査の場合は有効回収票及び回収率を必ず記入）：

51名。回収率100%

IV. データ分析の方法と結果

8. データ分析／解釈の方法：

9. 調査の成果（調査から得られた主な知見など）：

意識調査と音響音声解析の結果を比較し、「いい声」とされる特徴とされた「低い声」「落ち着いた声」には、「ピッチL」「速度」という物理的特性が対応していることがわかった。

10. 報告書刊行の予定と概要：

多文化・共生コミュニケーション論議。